

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C141	17-315	慶應義塾大学 加藤眞三
題名(原題/訳)		
The Effect of the Cognitive-behavioral Model-based Psychoeducation and Exercise Intervention on Quality of Life in Alcohol Use Disorder. 認識行動モデル・ベースの精神教育と運動介入のアルコール使用障害者の Quality of Life への効果		
執筆者		
Gür F ¹ , Can Gür G ² , Okanlı A ³ .		
掲載誌		
Arch Psychiatr Nurs. 2017 Dec;31(6):541-548.		
キーワード		PMID:
アルコール使用障害、認識行動モデル、運動、精神教育		29179818
要旨		
<p>目的: 本研究の目的は認知行動モデル(CBM)-ベースの精神教育と運動介入アルコール使用障害者(AUD)で生活の質(QoL)への効果を評価することである。</p> <p>デザイン 本研究は非ランダム化対照設定試験であった。</p> <p>方法 CBM ベースの精神教育と運動介入は、実験群に1週につき4回の頻度で6週間適用され、対照群に介入は適用されなかった。</p> <p>所見: 開始前の QoL は実験群なおよび対照群の間に有意差($p > 0.05$)は見られなかった。しかしながら、介入後の QoL では実験群の平均スコアは対照群より有意に($p < 0.05$)高かった。</p> <p>結論 アルコール使用障害者に適用される CBM ベースの精神教育と運動介入は明らかに QoL に影響を及ぼすことが判明した。</p> <p>臨床関連: 看護師による CBM ベースの精神教育と運動介入はアルコール使用障害者の生活の質を改善するのに用いることができる。</p>		